

鈴木 真澄 議員
(自 民)

長期基本計画と新庁舎について

問 前回の基本計画の達成度と、今回その評価をどのように生かすか。

答 着実に計画事業を推進してきた。品川区の将来に向け、さらなる充実を図るべく計画化している。

問 職員長期基本計画にける思いはどう表現されているか。

答 全庁的な課題認識と機運醸成を図る取り組みを進め、庁内議論の積み上げを新計画素案としている。

問 JR広町社跡地案の床面積ほどの程度か。第二庁舎も含めた検討を。区役所跡地に集客施設を。

答 行政機能を効果的に配置するため必要な床面積を検討。第二庁舎は機能やまちづくりを合わせ検討。多目的の施設が必要と考える。

問 教育について
学習指導要領改訂後の影響は。

答 義務教育9年間を一貫して捉える学びの理念を継承しており大きな影響はない。

問 特別支援教育も小・中学校の切れ目のない接続が必要と考えるが。

答 児童・生徒の障害の状況に応じた指導を組織的かつ計画的に行うことが大切。個別や小集団での指導に取り組んでいる。

問 ぷりすくーる西五反田の社会福祉法人化の具体的スケジュールは。

答 既存の社会福祉法人との合流による社会福祉法人化をめざし調整。

問 就学前教育に対する運営方針は何か、多様な保護者ニーズを捉えどのように展開していくか。

答 全ての乳幼児に対し質の高い保育・教育を行い、小学校教育にスムーズにつないでいく方針。

東京2020大会について

問 期間に合わせ品川の伝統文化の象徴である神輿渡御の実施を。

答 予算編成に合わせ具体的に検討。品川区独自ボランティア「しな助」と大会終了後も連携を。

問 大会ボランティアで地域貢献の楽しさを体感し、協働の担い手になって頂くことはレガシーと捉える。その他の質問
・羽田新飛行ルートに関して

安藤たい作 議員
(共 産)

問 区民、区議会決議を無視し羽田新ルート計画を受け入れた区長に資格なし、濱野区長の辞職を求める

答 国は「品川区からは理解を得られ」と明言したが、その評価でよいのか。世論と区議会決議に反し、計画を受け入れた濱野区長には区長の資格はない。辞職を求める。

問 羽田空港の機能強化は、国が進める事業。国は責任を持って進めると回答。あくまで国の判断というのが区の認識。区としては騒音や落下物など環境影響に対する取り組み、ルートを固定化しない取り組みを引き続き国に求めていく。

問 人口激増であふれる駅、ゼネコンの儲けのために税金投入で進める超高層再開発は止めよ
大崎駅西口F南地区再開発が149mでなければならない理由は何か。

住民の声を受け、規模の見直しを準備組合に働きかけるよう求める。

答 事業者が地域住民と話し合いを重ね、この地域の意見として進めていると聞いている。区の方針に従ったこの計画を支援していく。

品川の競争教育を見直し、子どもの豊かな成長の保障を

問 小2から毎年行われる学力テスト。現状の多過ぎる授業時間や宿題は、子どものストレスをうみ、自由な時間を奪っていると思わないか。

答 学力調査は年1回という回数、アンケート結果からも過度な負担を与えているとは思えない。授業時間は1、2年生では授業時数を増やしているが、3年生以上は国の改訂と同様の授業時数。宿題は、各校が児童・生徒の実態等を鑑みながら無理のない形で行っている。

消費税10%に反対を 労働者の適正な賃金を保障する公契約条例を制定し、地域経済の活性化を

問 設計労務単価と現場労働者の実際の報酬の乖離は問題では。労働報酬下限額を設定した条例制定を。

新妻さえ子 議員
(公 明)

命を守るための防災対策について

問 災害時、医療上リスクの高い妊産婦・乳児に特化した避難所である、救護所設置を要望。

答 専用の施設の設置を含め、支援体制を検討する。

問 ペットの避難において、理解促進のため、区民避難所での避難訓練の際、実際にペットを連れての同行避難を行っては？

答 実施に向け調整を行っている。

居住支援協議会の設置について

問 住宅確保要配慮者の支援のため、住宅課、子ども未来部、福祉部との連携が必要では？

答 居住支援協議会の設立に先立ち、関係各課を構成員とする庁内検討会の設置を予定している。

問 空き家の利活用について
「空き家等地域貢献活用事業」を

活用して、地域に根差した空き家の利活用推進を要望。

答 子どもの学習支援等での空き家の利活用に取り組んでいることから、この制度等の活用をしていく。

高齢者の安全運転支援について

問 区のホームページに「免許返納について」などの情報提供や普及促進に関する掲載を要望。

答 高齢者の交通事故の状況や運転免許証の自主返納、区における相談窓口について掲載する準備をしている。

長期化させないためのひきこもり支援について

問 秋田県藤里町が、個別訪問から就労支援へとつなげた結果、ひきこもりが激減した藤里方式を参考に品川区社会福祉協議会が行う、「若者の社会参加応援事業」と、区の事業である子ども若者応援フリースペースと荏原保健センターを始め、3保健センターとの連携は？

答 現在、品川区社会福祉協議会としながわ藤里町体験プログラムの構築を図っている。この構築には、フリースペースの運営者や保健センターの協力は不可欠。定期的な意見交換等を行っている。

大沢 真一 議員
(自・無)

高齢者のセーフティネットについて

問 将来的にひとり暮らし高齢者と高齢者のみの世帯を加えた数がどう推移するか、見解を。

答 65歳以上の高齢者人口や高齢者世帯は現在も増加をしており、今後とも次期長期基本計画の10年間にについては増加すると見込んでいる。

問 見守りのマンパワーを現状の施策で十分確保できるのか。必要があれば定期連絡の有料サービスを提供してはと考えるが、見解は。

答 民生委員や町会・自治会の訪問等を中心に、地域での見守り体制の充実を図っている。さらに、民間警備会社を活用した緊急通報システムによる安否確認事業を実施し、緊急時における不安の解消と生活の安全の確保を図っている。

品川区予算の透明性の確保について

問 港区等では随意契約の情報が公開されており、いずれはここまでの透明性が必要ではないか。品川区においても、区のホームページで落札率や受注業者など公表すべきと考えるが、見解は。

答 契約情報については、区ホームページで工事発注予定表を掲載するほか、契約簿等を紙の冊子により区役所経理課窓口で公表している。今後、ホームページにおいて「予定価格」等の公表を検討していく。

品川区におけるタワーマンション建設について

問 タワーマンションの建設をめぐっては景観への影響や、タワーマンション住民への騒音問題により地域イベントが制限されるなどの事例も報告される。地域づくりとうまく共存して建設されなければならないと考えているが、見解は。

答 都策定の「都市づくりのブランドデザイン」において、品川区の住宅の整備は量から質への転換の促進が定められた。今後も望ましい将来像を見据え、地域コミュニティを重視し、持続的発展を考えたまちづくりに取り組んでいく。